

平成 28 年度第 2 回 八戸市虐待等防止対策会議 会議概要**▼ 開催日時・出席者**

日 時： 平成 29 年 3 月 24 日（金） 10：00～10：50

場 所： 市庁別館 2 階 会議室 C

出席者： 以下のとおり

【出席者（計 28 名）】

出席委員（13 名）

高橋 育子
清水 博己
豊山 信子
武部 悦子
上條 勝芳
高橋 隆悦
田頭 初美
安田 真
黒澤 徹
天摩 雅和
豊島 美佐子
市川 美代志
竹内 純子

欠席委員（1 名）

小西 秀明

庁内関係部署職員（12 名）

小林 市長
加賀 福祉部長兼福祉事務所長
豊川 福祉部次長
工藤 子育て支援課長、子育て支援課 職員 1 名
小橋 高齢福祉課長、高齢福祉課 職員 1 名
山道 障がい福祉課長、障がい福祉課 職員 1 名
石藤 健康づくり推進課長
教育指導課 職員 2 名

事務局（3 名）

出河福祉政策課長、福祉政策課 職員 2 名

▼ 会議内容

■次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 会長及び副会長選出
- 5 会長・副会長あいさつ
- 6 議題

各課所管の会議について

- ① 八戸市高齢者・障がい者虐待対策ケース会議
- ② 八戸市要保護児童対策地域協議会
- ③ 八戸市いじめ問題対策連絡協議会

- 7 閉会

■議事の概要

- ・ 議事では、各課所管の会議などについて、それぞれの担当課から説明し、意見交換を行った。

■案件の内容

各課所管の会議について

- 資料 1-1～1-3、資料 2-1～2-3 及び資料 3-1～3-2 により、関係各課が所管している関連会議について、各所管課の担当者が説明し、その後、意見を聴取した。（主な質問・意見は以下のとおり）

<主な質問・意見>

（委員）

八戸市における児童虐待の現状で、虐待を受けている児童の特徴があるのか。また、虐待者について、八戸市の場合、実父と実母となっているが、その虐待者の特徴があれば伺いたい。

⇒（子育て支援課）

虐待を受けている子どもは、生後間もない子から、小中学生まで幅広い。また、虐待者については、家庭の生活困窮もあるが、精神疾患などで親の生活能力が落ちて、炊事ができなくなっているなどのケースがあった。その一方で、普通に生活ができている家庭であっても、夫婦喧嘩が発端で警察が出動し、子どもの前で喧嘩したということで、児童相談所も入ったりしたケースもあった。虐待については、どのような状況でも起こりうるものだと感じた。生活困窮であっても、仲良く過ごしている家庭も多くあることから、必ずしもパターンがあるとは言えない。

(委員)

虐待を受けている児童の中で、障がいなど特性を持っている方などもいるのか。

⇒ (子育て支援課)

全部のケースを市で把握しているわけではないが、当課で把握している限りでは、障がい児に対してのケースは聞いていない。

(委員)

八戸市におけるDV防止の現状について、高齢者夫婦間のDV相談が増加しているとのことだが、介護支援専門員の立場で高齢者虐待となると、高齢福祉課へ相談したりするが、こういった高齢者からの相談が多いということか。また、こういった高齢者から相談があった際は、高齢福祉課との連携はどのようにしているのか。

⇒ (子育て支援課)

当課には相談室があり、電話での相談ということで高齢者の方も家庭内のことを相談されている中で、高齢者の方からの夫婦間のトラブルに関する相談などがあるが、高齢福祉課との連携としては、その相談者の意思として避難をしたいなど、相談のレベルによって内容の深刻度合いを相談員が判断し、高齢福祉課に繋いだ方が良いと判断した場合は、高齢福祉課へ繋いでいる。

(委員)

高齢者の虐待について、資料を見るかぎり少なく感じる。高齢者の場合、老老介護だとか、子供が介護する場合とかいろいろなケースがあるが、実際は介護支援センターなどが通報するケースが多いと思う。実際問題、もっと多いように思うが、市ではどのように把握しているのか。

⇒ (高齢福祉課)

本人からもあれば、地域のサブセンターを通してや、民生委員など町内の方からもある。また、警察へ通報し、市へ連絡が来るケースが一番多い。数字的には減っているが、それなりに相談は来ており、表面化している部分についてはすぐに対応をとっている。

(委員)

介護センターの職員の方が家庭訪問している段階で、ある程度判断することが必要だと思うが、なかなか虐待だと判断するのも難しい。自分は民生委員としていろいろ感じることもある。表面化するのは氷山の一角で、見えないところで潜在しているのもあるのではないかと日頃から危惧している。